

令和元年度 中間期自己評価書

愛南町立長月小学校

		評価規準 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満													
評価項目		評価指標及び目標値(期待される姿)		評定		学校による考察(◇) 改善方策(◆)		評価資料	個別評価	肯定率 4+3	アンケート平均値(100%満点)				
											4	3	2	1	?
特色ある学校づくり	ふるさと学習	地域の教育力や伝統・文化を生かしながら、人的・物的環境を活用したふるさと学習を推進する。	A	◇地域の方から、田植えや野菜の苗の植え付けや手入れの仕方、収穫について直接御指導いただき、それを生かして田畑で作物を意欲的に育てることができた。更に、収穫した野菜を活用してのカレー作りやピザづくりを通して、収穫の喜びを感じるとともに、自分たちが生きていくために食物の命をいただいていることを学ぶことができた。生け花教室や食育ダンス、栄養教諭による給食指導、苔玉づくり等、様々な活動にも地域の方の御指導をいただき、充実した学びができたことが、高評価につながったと考えられる。 ◆2学期からは、活動後の振り返りをもとに児童が保護者に伝え、それに対する感想を学校に返していただいたり、把握できた内容を学校だより等に掲載したりしながら、人との関わり楽しさを実感できるような取組を行い、保護者や地域との更なる連携を図り、より充実したふるさと学習の推進につなげたい。	教職員1	A	100	57	43						
		目標値:教職員・児童・保護者の90%以上が肯定			児童1	A	96	74	22	4					
学校運営協議会委員の所見								保護者1	A	96	57	39	4		
確かな学力の定着と向上	主体的・対話的な学習の実践	やる気を持って粘り強く学習に取り組む児童が育っている。	A	◇主体的に学習に取り組むことができるように、子どもたちが考えたいようなめあてを設定したり、発問を工夫したりした。また、ペアやグループで話し合う活動も取り入れた。このような取組を通して、少しずつ主体的に学習に取り組み、粘り強く学習に取り組むことができるようになってきている。しかし、教職員のアンケート結果から、さらに主体的に学習に取り組むことができるように授業を工夫する必要があると感じる。 ◆来年度からの新学習指導要領完全実施に向けて、研究会や自己研修を通して研修を深め、さらに主体的・対話的な学習に向けての授業改善を行う。	教職員2	B	86	29	57	14					
		目標値:教職員・児童・保護者の90%以上が肯定		児童2	A	96	35	61	4						
	基礎学力の定着	プリントの活用や業間を有効活用し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図っている。	B	◇週に2回、元気タイムに学習の時間をとった。ドリルやプリント等を用いて、読み・書き・計算の力が身に付くよう、取り組んだ。学担以外の教員も指導に入り、個に応じた指導を行うことができた。そのため、少しずつ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができている。しかし、単元別テストの結果から、学力の個人差が大きく、基礎・基本が定着していない児童がいることも分かる。 ◆単元テストで平均正答率が80パーセント満たない児童に対して、個別指導ができる体制にしたり、個に応じた宿題を出したりして、基礎・基本の定着(特に漢字の読み書きと文章の読解力)を図る。	児童3	A	96	48	48	4					
		目標値:児童・保護者の90%以上が肯定 国語科と算数科の単元テストの平均正答率80%以上の個人が8割以上		児童9	A	96	61	35	4						
読書活動の充実	幅広いジャンルの本に親しむよう、読書活動の充実と工夫を図っている。	B	◇新しい図書は、幅広いジャンルの本を購入し、児童がよく活用しているミニ図書館に置いたため、様々な本に親しむ児童が増えたと考えられる。 ◆ミニ図書館や学級文庫の本を読んでいる児童が多いため、図書室にある図書システムの活用が十分できていない。1学期間で児童一人当たりの本の貸出冊数は、9.7冊でありたくさん借りているとは言いがたい。児童が読んでいる本をすべて把握できていない可能性もある。そのため、保護者の評価が下がったのではないかと考えられる。2学期からは、2週間に一度、ファミリー読書を推奨し、親子で幅広い本に親しめる時間の確保を行っていきたい。また、図書館の改造を行い、児童が更に図書館に足を運びたいような環境づくりを行っていく。	保護者4	A	91	26	65	9						
	目標値:児童・保護者の90%が肯定 図書システムを活用したジャンル別読書量		児童4	A	92	48	44	8							
学校運営協議会委員の所見								保護者5	C	79	40	39	14	4	
豊かな心を育てる教育の創造	あいさつ・返事運動の推進	家庭・地域との連携により「明るく丁寧なあいさつ・返事」ができる児童が育っている。	A	◇「あいさつや返事ができている」と児童・保護者・地域のすべてが回答している。6年生を中心に気持ちのよいあいさつができているという評価を地域の方がおっしゃってくれている。最高学年が中心となって、あいさつや返事を頑張っているため、下級生もあいさつや返事をしなければならぬという意識が芽生えていると考えられる。しかし、教職員は、挨拶ができる児童とできない児童の差が大きく、返事についてはまだまだ不十分な状態であるという認識をしている。 ◆相手を見て、しっかりと挨拶ができるように、特に登下校時の機会を利用し、継続して教職員が範を示していく。その際、同じ人に2回目目に会った場合は、会釈をするように指導していく。また、返事については、教育活動の中で、根気強く、できるように指導していく。その中で、挨拶や返事をする事で、コミュニケーション力が向上したり、お互いが気持ちよく過ごすことができるようになることにつながっていくことを理解させていく。	児童5	A	96	66	30	4					
		目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定		児童6	A	96	66	30	4						
	生命尊重	食育推進事業を中心とした活動や学習、道徳科において、生命尊重について積極的な指導を図っている。	A	◇各学級の栽培活動や、命に関する体験活動を積極的に行うことができた。また、その体験活動と関連させた授業も行うことができた。そのため、命を大切にし、命に感謝していただくという心が育ってきたように思う。 ◆体験活動や授業で行った内容や、その時に感じた思い等を、児童が保護者に伝え、保護者の感想を学校に返していただく取組や、出していただいた感想を学校だより等で紹介することで、更なる家庭や地域の啓発につなげていきたい。	保護者6	A	96	66	30	4					
		目標値:教職員・児童・保護者の90%以上が肯定		地域1	A	100	75	25							
認め合い支え合う集団づくり	豊かな体験活動を通し、自他のよさに気づき、認め合い支え合う集団づくりを行っている。	A	◇今年度より始めた児童会の取組「全校会議」で学校でのよりよい過ごし方について全校児童で話し合う機会を設けたことや、全校での俳句集会実施により、自分の意見を言ったり友達の意見を認めたりしながらよりよい集団づくりに向かうことができた。縦割り班活動や全校遊びを6年生が中心となり、みんなで楽しく行うことができた。 ◆活動中には、トラブルはある。どんなに小さなことでも早期発見、早期解決をして、よりよい集団を持続させたい。	教職員3	A	100	57	43							
	目標値:教職員・児童・保護者の90%以上が肯定		児童6	A	100	83	17								
特別支援教育の推進	児童やその保護者のニーズに応じた合理的配慮の提供を行い、生活や学習上の困難の克服を目指した指導・支援に努めている。	A	◇通級指導教室や南えひめ病院等の関係諸機関と連携して、児童の実態に即したニーズを提供できたことや、一人一人を見つめる会や個別の指導計画等で、教職員全体で共通理解を図り、実践することができたことが高評価につながったと考えられる。 ◆これからも、一人一人を大切にしたい学級経営を行うとともに、支援を必要とする児童について、関係諸機関との連携を密にするとともに、全教職員で共通理解を図り、共通実践していくことで、更に充実した指導・支援を継続していく。	保護者7	B	87	48	39	13						
	目標値:教職員・児童・保護者の90%が肯定		教職員4	A	100	43	57								
児童理解の充実	好ましい人間関係の構築と教育相談の充実を図り、いじめ・不登校等の未然防止・早期発見・早期対応に努めている。	C	◇道徳や授業や学級活動の充実や日々の指導により、重大ないじめは起こっていないと考えられる。しかし、保護者の中には、「仲間外れはあると思う」と答えられた方がおり、それがいじめや不登校につながる可能性も十分考えられる。 ◆これまで以上に道徳や学級活動の授業の充実を行うと共に、休み時間の子どもの観察も全教職員体制で行う。そして、いじめや不登校につながりそうな事案には、早期対応をしていく。また、子ども一人一人と対話をする機会を積極的に確保していき、子どもの心に寄り添いながら、全教職員で情報共有をしなが、児童を育てていく。	児童8	A	100	78	22							
	目標値:教職員・児童・保護者・地域の100%が肯定		保護者9	A	100	48	52								
学校運営協議会委員の所見		異校種間等の交流も取り入れ、仲間意識を育ててほしい。また、子どもだけの空間をつくらないようにし、トラブルがあれば、その機会を生かして、望ましい関わり方についてしっかりと学び合わせてほしい。						教職員5	A	100	50	50			
								児童10	A	100	87	13			
								保護者10	B	91	91			9	
								地域2	D	56	56				44

